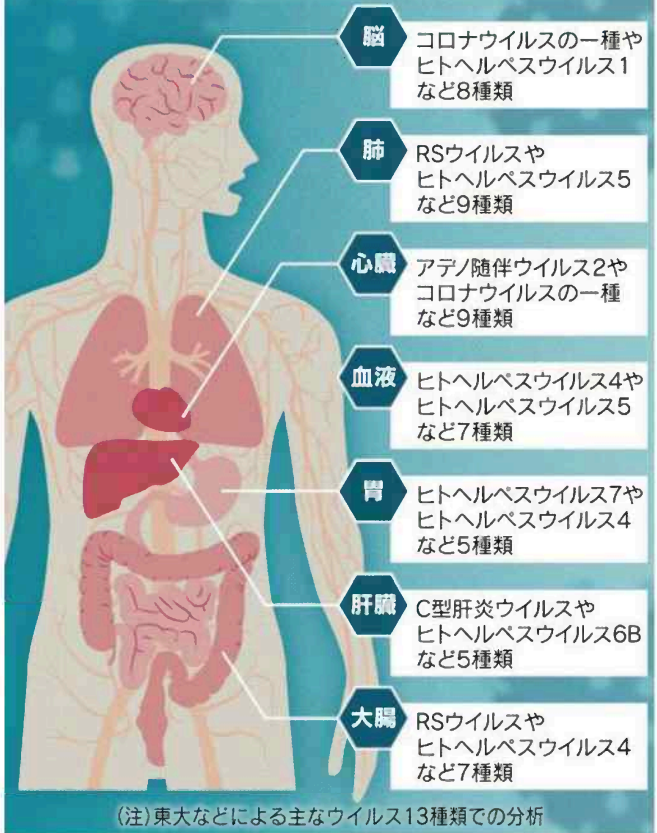
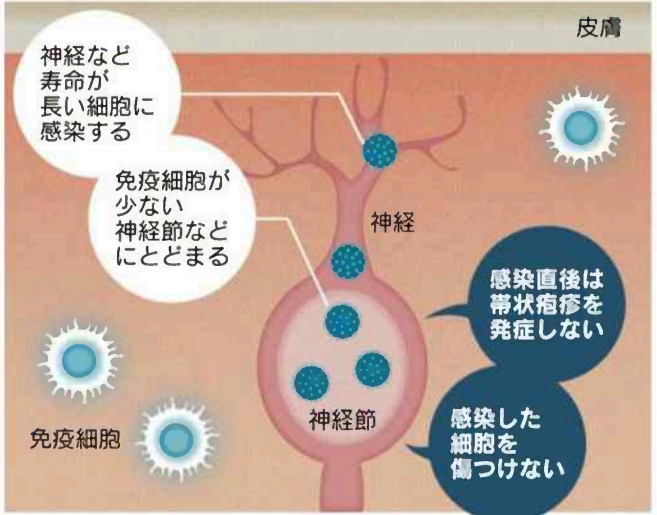


# 感染しても何もしない

健康な人の体にもたくさんのウイルスがいた



## 長期間潜伏するための戦略(水痘・带状疱疹ウイルス)



## 長い時を経て、活動を始める

ふつうのウイルス(例:インフルエンザウイルス)	
潜伏期間: 1~4日	
高熱、全身の倦怠感、頭痛	
<b>水痘・带状疱疹ウイルス</b>	
潜伏期間: 数十年	
頭や腰の神経節に主に40年以上にわたって潜む。疲労や加齢で免疫力が下がると増殖、带状疱疹が出る	
<b>ボルナウイルス</b>	数十年
主にウシや馬に感染。まれに脳炎を発症	
<b>エイズウイルス</b>	無治療で数~十数年
免疫細胞に感染し、遺伝子に遺伝情報を書き込む	
<b>ヒトT細胞白血病ウイルス1型</b>	数十年
日本で約100万人が感染。白血病の発症は約5%	
<b>C型肝炎ウイルス</b>	肝硬変や肝がんまで5~10年以上
肝硬変や肝がんのリスクも	
<b>ヒトヘルペスウイルス7型</b>	—
胃や肺、肺などに感染。胃の生理機能に関与か	

グラフィックス 強矢さつき

# 健康な人の体に「常在」

## 驚異のウイルスたち

⑤

東京大学のチームは体内に潜伏中のウイルスを追っていた。ついに健康な人の全身に少なくとも39種類のウイルスが居着いていることを突き止めた。肺や肝臓など主な27カ所で、感染を免れていた組織はゼロ。想像を超える種類のウイルスは、脳や心臓にまで侵入していた。ウイルスは人間や動物の体内でたちまち増え、すぐに体をむしばむ印象が強い。発病していない「健康な感染者」の存在は、感染症と闘ってきた人間社会にウイルスとの新たな向き合い方を迫っている。

「健康な人に病原体としてのウイルスが思った以上に『常在』していることが驚いた。全身で網羅的に調べたのは世界初だろう」。6月4日、東大医科学研究所の佐藤佳准教授らは解析結果を発表した。

健康な人の体を生存中に隅々まで調べるのはふつうは無理だ。ところが事故などで健康のまま亡くなった547人のデータが海外にあった。研

究チームは、全身51種類の組織について米国立生物工学期報センターに登録があるウイルス5561種類の痕跡を探った。手掛かりは、ウイルスがヒトの細胞に感染して残した遺伝物質の情報だ。

丹念な分析はまさかの結果につながる。血液や神経、肺や肝臓など27カ所をみても、全てにウイルスの痕跡が見つかった。脳には8種類、心臓

には9種類が感染。中には風邪の原因にもなるコロナウイルスの一種もいた。研究チームが目を疑ったのが「ヒトヘルペスウイルス7」だ。「胃から驚くほど多く検出された」(佐藤佳准教授)。

ウイルスは沈黙を守っていた。詳しくは今後の解析を待たねばならないが「何もしていないようにみえて、何かしているはず」と研究チームは

「感染した生物を殺さず、自らの子孫を残す」(萩原教授)。

「ウイルス感染に対して、世の中がより寛容になるのか。逆に新型コロナウイルス

には9種類が感染。中には風邪の原因にもなるコロナウイルスの一種もいた。研究チームが目を疑ったのが「ヒトヘルペスウイルス7」だ。「胃から驚くほど多く検出された」(佐藤佳准教授)。

ウイルスは沈黙を守っていた。詳しくは今後の解析を待たねばならないが「何もしていないようにみえて、何かしているはず」と研究チームは

「感染した生物を殺さず、自らの子孫を残す」(萩原教授)。

「ウイルス感染に対して、世の中がより寛容になるのか。逆に新型コロナウイルス

「ウイルス感染に対して、世の中がより寛容になるのか。逆に新型コロナウイルス

# 感染した細胞 傷つけず身を隠す

「健康な人に病原体としてのウイルスが思った以上に『常在』していることが驚いた。全身で網羅的に調べたのは世界初だろう」。6月4日、東大医科学研究所の佐藤佳准教授らは解析結果を発表した。

健康な人の体を生存中に隅々まで調べるのはふつうは無理だ。ところが事故などで健康のまま亡くなった547人のデータが海外にあった。研

究チームは、全身51種類の組織について米国立生物工学期報センターに登録があるウイルス5561種類の痕跡を探った。手掛かりは、ウイルスがヒトの細胞に感染して残した遺伝物質の情報だ。

丹念な分析はまさかの結果につながる。血液や神経、肺や肝臓など27カ所をみても、全てにウイルスの痕跡が見つかった。脳には8種類、心臓

には9種類が感染。中には風邪の原因にもなるコロナウイルスの一種もいた。研究チームが目を疑ったのが「ヒトヘルペスウイルス7」だ。「胃から驚くほど多く検出された」(佐藤佳准教授)。

## 潜伏感染

### 症状出ずに一定期間感染



病気の症状が出ないまま、生物にウイルスなどの病原体が感染し続ける状態。ヒトヘルペスウイルスやボルナウイルスが、潜伏感染するウイルスの代表格だ。感染者の立場からみて、発症していない状態を意味する「不顕性感染」ともいう。

症状が出るまでの潜伏期間は最長で数十年に達する。期間が厳密に決まっているわけではない。感染した人の免疫力が下がると発症する傾向にある。潜伏の形態の1つに、免疫細胞の標的となるたんぱく質を作らず、遺伝物質の形で身を潜めたり、生物のDNAに自らの遺伝情報を組み込んだりする例がある。潜伏したまま他の人へ感染を広げるウイルスもいる。